

## プレアボイドおよび疑義照会事例の 記録・集積を通じた薬剤適正使用の推進

北区 真星病院 元持 富見代（薬剤師）

【共同研究者】 水口直美 苗村弥生 上田由香里 辻井恵美  
島袋郁実 高橋佑季 中住友香

【目的・方法】当院薬局では2015年2月よりプレアボイド報告および疑義照会の集積を開始した。その情報を薬剤師間で共有し、薬剤の適正使用推進を目指している。

【結果】総数は329件。うち持参薬関連66件（20%）。原因は副作用9件（14%）が最多、腎機能低下8件（12%）、誤処方・誤転記8件（12%）、同種・同効・同一薬重複投与7件（11%）、患者の病態変化5件（7%）であった。原因薬剤は、消化器系薬15剤（20%）が最も多く、循環器系薬12剤（16%）、血液・造血系薬10剤（13%）、中枢神経系薬8剤（11%）腎臓・泌尿器系薬5剤（6%）であった。

原因のうち上位であった副作用、腎機能低下、同種・同効・同一薬重複投与の原因薬剤は全てにおいて消化器系薬が最多であった。消化器系薬15剤のうち5剤（33%）は腎排泄型薬のH2ブロッカーであった。

【結論】薬剤師がプレアボイド情報を共有し疑義照会をすることで処方修正されるケースもある。今後も高齢者が大半を占める入院患者の薬剤適正使用の推進に寄与していきたい。